

第2学年2組 図画工作科学習指導案

平成27年11月11日（水）第5校時

場所 体育館

指導者 鈴木 裕美

授業協力 埼玉県立近代美術館

1 題材名 こんにちは あったらいいな♪ 【B鑑賞 美術館連携】

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、図工の授業に意欲的に取り組み、またクラスレクのお楽しみ会準備等では、絵を描いたり何か物を作ったりして創作活動が好きな児童が多いことが窺える。男女仲が良くトラブルが少ない反面、自分の考えを发表或し、わかりやすく相手に伝えることに課題がある。

自校では、「生活に生きてはたらく言葉の力を育てる指導法の研究—言語活動の充実による国語授業力向上と言語スキルアップを通して—」の研究をしている。国語の授業だけでなく各教科においてコミュニケーション能力を高められるような授業の工夫をしている。鑑賞教育を通して、「みる・考える・話す・聞く」という基礎的な能力を高め、コミュニケーション能力を育てていくことができると考える。

(2) 題材を指導するに当たって

鑑賞学習と発達の関連表（原案：奥村高明氏 鑑賞教育キーワードmap）では、低学年の鑑賞対象は「自分の身の回りの作品など」で自分たちの作品や身近な材料と示されている。身の回りの作品は高学年になるにしたがって対象が広がり、暮らしの中の食器や家具なども含まれてくる。本題材は、美術館との連携から暮らしの中の作品について図画工作の学習を組み立てたものである。低学年の児童にとって椅子はただ「座る」ためだけの道具でしかなく、そこに面白さや楽しさを感じる経験や機会はない。奇想天外なデザインの椅子を見ることでたくさんの発見が生まれ、見たり触ったり座ったりと五感を十分に働かせながら行う鑑賞活動は、低学年の時期にぜひ経験させたい。

本学級の児童は、埼玉県アートカードによる鑑賞授業や美術館所蔵の名画鑑賞を経験しているが、椅子などの家具を鑑賞する経験は初めてである。様々な椅子をじっくり鑑賞することで、造形的な面白さや楽しさを味わい、新しい感じ取り方を見いだし、自分なりの意味づけでとらえることができると期待している。お気に入りの椅子について、なぜそれを選んだのか生活の場面と結びつけて具体的に説明できるように促していきたい。お互いに伝え合う活動を通してコミュニケーション能力を高められるようにしていく。

評価については、行動観察や、発言、教師対児童や児童同士の対話、ワークシートの他に、「こんにちは あったらいいな」というテーマで、一人一人が椅子を粘土で作る活動を取り入れる。鑑賞授業前後で、自分のイメージする椅子がどう変化していくのかその変容を観察する。言語だけに偏らない評価も試みたい。

3 学習指導要領上の位置づけ

A表現（2）感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す活動を通して、次の事項を指導する。

ア 感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。

イ 好きな色を選んだり、いろいろな形をつくって楽しんだりしながら表すこと。

ウ 身近な材料や扱いやすい用具を手を働かせて使うとともに、表し方を考えて表すこと。

B鑑賞（1）身の回りの作品など鑑賞する活動を通して、次の事項を指導する。

ア 自分たちの作品や身近な材料などを楽しく見ること。

イ 感じたことを話したり、友人の話を聞いたりするなどして、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどに気付くこと。

〔共通事項〕（1）「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を指導する。

ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などをとらえること。

イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

4 美術館との連携について

指導者はこれまでに、埼玉県立近代美術館と連携した授業をいくつか実践してきた。毎年取り組んでいるのが、モネ「積みわら」、ピサロ「メラニーの牛を追う娘」、シャガール「花束」等の美術館所蔵の名画による鑑賞授業である。美術館に行った経験がない児童達に大きな複製画を見せるだけで驚きと感動があった。さらに特別支援学級では、美術館が実施しているワークショップを取り入れた授業を展開し、造形活動の楽しさを改めて感じる事ができた。美術館独自の教育普及プログラムを利用することによって、図工の学習活動に新しい可能性やヒントを見つけることができる。

埼玉県立近代美術館は、開館当時から椅子のコレクションを館内に点在させ、来館者が座れる環境を整えてきた美術館である。椅子を扱ったプログラムも充実し、多くの児童生徒が椅子を視覚に限らず、触ったり触れたりして親しむことができる。

本物の作品で鑑賞することで、児童のものを見る目を養い、生きる力を育む感性を育てたいという学校の思いと、椅子の造形に親しむ活動を通して、より美術館を身近なものに感じてほしいという美術館の思いをつないでいく。

5 本題材の目標及び評価規準

(1) 目標

椅子を見ることや触れることから、その造形的な面白さや楽しさを味わい作品の感じに気付く。

(2) 評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①自分の表したいものを粘土でつくことを楽しもうとしている。 ②自分の気に入った作品を体全体の感覚を働かせて味わおうとしている。	感じたことや想像したことから、表したいことを見つけた り、形や色などについて考えた りしている。	手などの感覚を働かせながら、粘土を伸ばしたり、まるめたりするなど工夫して表している。	見る、触れるなどしながら、作品のつくりや形、色を捉え、面白さや楽しさを感じている。

6 指導と評価の計画 4時間扱い(本時 2/4時)

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法			
		造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
1	すわってみたい椅子をつくろう 自分の座ってみたい椅子をつくる。 (油粘土)	①自分の表したいものを粘土でつくことを楽しもうとしている (観察・対話)		手などの感覚を働かせながら、粘土を伸ばしたり、まるめたりするなど工夫して表している。 (観察・作品)	
2 本時	「こんないす あったらしいな」 様々な椅子を鑑賞してお気に入りの椅子を見つける。	②自分の気に入った作品を体全体の感覚を働かせて味わおうとしている。 (観察・対話)			見る、触れるなどしながら、作品のつくりや形、色を捉え、面白さや楽しさを感じている。 (観察・対話・発表・ワークシート)
3 4	「こんないす あったらしいな」 ～いすのデザイナーになろう～ 自分の座ってみたい椅子をつくり、色をつけて完成させる。(紙粘土)	①自分の表したいものを粘土でつくことを楽しもうとしている。 (観察・対話)	感じたことや想像したことから、表したいことを見つけた り、形や色などについて考えた りしている。 (観察・作品)	手などの感覚を働かせながら、粘土を伸ばしたり、まるめたりするなど工夫して表している。 (観察・作品)	

*「鑑賞の能力」の評価

発表している児童だけを評価するのではなく、話し合いの様子、ワークシート、椅子の造形活動など、様々な表現活動を基にして評価をする。粘土による椅子作りについては、鑑賞授業前後の形の変容を捉える。

7 本時の学習 (1時間－45分)

(1) 目標

椅子を見ることや触れることから、その造形的な面白さや楽しさを味わい作品の感じに気付く。

(2) 材料・用具

鑑賞の対象として、形や色の視覚的な特徴を捉えやすい椅子9点を選んだ。

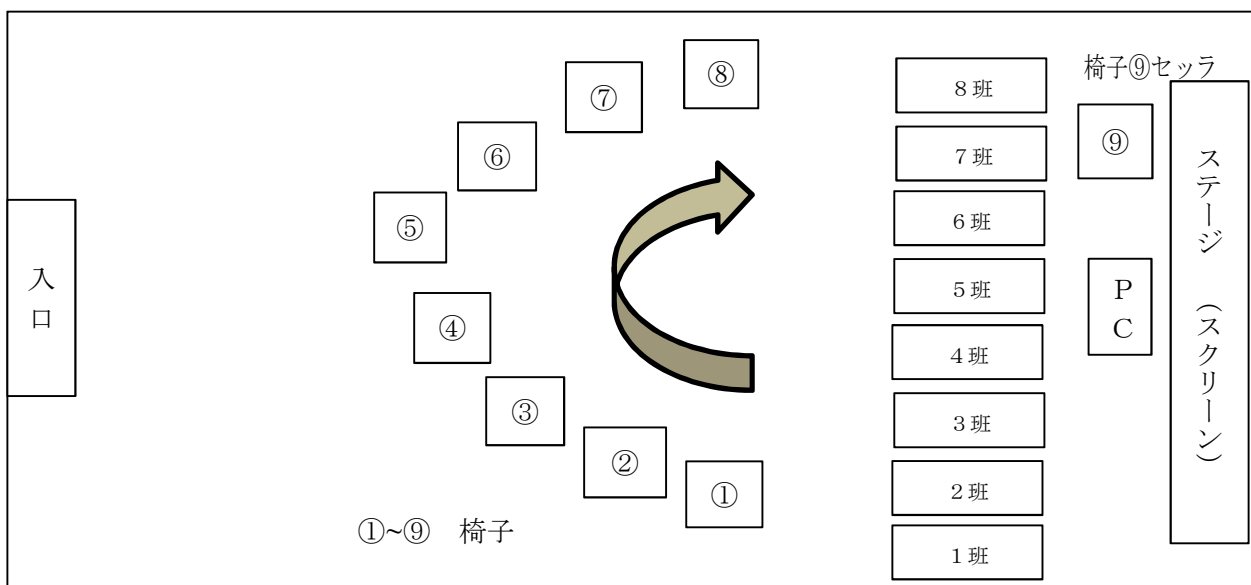
P C、プロジェクター、ワークシート、バインダー、ストップウォッチ

(3) 展開

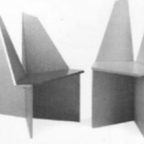
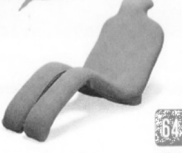
過程 時間	学習活動	指導上の留意点	評価と手立て ◎：十分満足できる状況 ◆：C判断児童への手立て
導入 5分	＜グループごとに整列＞ ○本時の学習の見通しをもつ ・椅子博士（近代美術館） ・美術館クイズ	(T1 鈴木) (T2 近代美術館) ・椅子の鑑賞を行うことを確認する。(T1) ・美術館の紹介 (T2) 	関 椅子に関心をもって見ている。
展開 12分	＜グループごとに移動＞ ○見る① 椅子に名前をつけてみよう ・各椅子1分ずつ鑑賞する。 	・グループごとに順番に椅子を鑑賞してワークシートに記入することを説明する。視覚的な捉えを大切にさせる。 ・鑑賞ポイントを説明する。(T2) (安全の確保、美術館でのマナーを教える。) ①じっくりみる。 ②自分の見方や感じ方を大切にする。 ③友達の見方や感じ方を知る。 	関 ◎感性を働かせて作品を見つめようとしている。 ◆生活班を利用してみんなで楽しむ雰囲気をつくり、活動内容の理解が困難な児童が孤立しないようにする。 ◎ワークシートを活用して感じたことや思いをふくらませている。 ◆友達との対話により、ヒントがもらえるように支援する。
5分	＜グループごとに整列＞ ○見る② クイズ大会をしよう 「問題です。○○という椅子はどれだ？」 	・児童がつけた名前を、クイズ形式で2～3点紹介する。(T1) ・名前をつけた理由を聞く。 ・他の人はどんな名前をつけたか聞く。 ・人によって物の見方や捉え方が違うことを伝え、自信をもって自分の意見が言えるようにする。	◎積極的に自分の考えを発表したり、友達のを聞いてたりしている。
10分	＜個人で移動＞ ○座る お気に入りの椅子を見つけよう ・自由に選んで座る。 	・実際に座ってお気に入りの椅子を選ぶことを説明する。(T1) ・生活の場面と関連させる。 どんな座り心地かな？ 実際に座ってみてどうだった？ どこに置きたい？ どんな時に使いたい？ どんな座り方ができるかな？ ・座るときの注意を確認させる。(T2)	鑑 椅子の特徴を自分なりに捉え、感じたことを生活の場面に結び付けている。 活動を通して、作品を見る面白さや楽しさを感じている。 ◎椅子を見たり触ったりして、形の面白さや楽しさを十分味わっている。

5分	気に入った理由をワークシートに書く。 <グループごとに整列> ○発表 お気に入りの椅子を発表しよう	①大切に座る。(落ち着いて) ②ワークシートは置いていく。 - 発表する。(T1) - 説明の仕方を教える。 「私は○番の椅子が気に入りました。なぜかというところからです。」	◎生活の場面と関連させながら椅子を選ぼうとしている。 ◆ワークシートに従って考えさせて、自分の考えを言語化できるように支援をする。
5分	○椅子のヒミツを知ろう 	- それぞれの椅子のエピソードを紹介する。(T2) - 美術館の先生に活動の御礼を伝える。	関 自分の意見をもち、伝え合う活動を楽しんでいる。 ◎積極的に発言している。
3分	○感想を発表しよう ○次の活動を知る	2～3人感想を言う。 - 今日の鑑賞をもとに、2回目の椅子をつくることを伝える。(T1)	関 たくさんの椅子が展示されている美術館に興味をもっている。

8 その他 会場図 (体育館)



椅子

① ロッキング・チェア 	② バントンチェア 	③ ガーデン:リトル・ツリ 	④ ジグザグ 
⑤ エクストレム 	⑥ サッコ 	⑦ パタパタ 	⑧ ブルム 

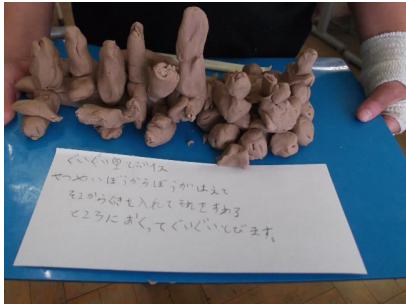
資料 児童の椅子の作品の変容

～イスの鑑賞授業をする前と後で児童の作品はどう変わったのか～

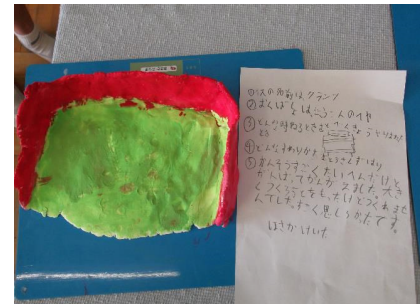
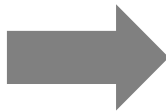
鑑賞授業前

鑑賞授業後

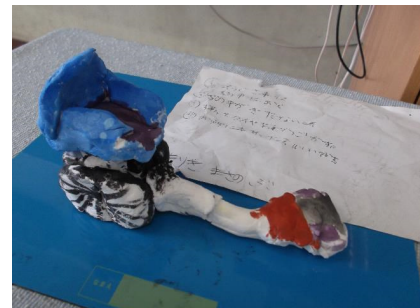
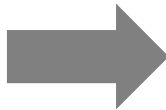
作品 1



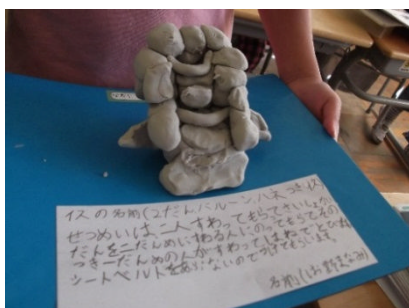
作品 2



作品 3



作品 4



鑑賞授業前は、こんな椅子があったらいいなと想像力を働かせて、夢のある椅子をつくる児童が多かったが、鑑賞授業後は機能を重視したシンプルな椅子をつくる児童が増えた。何のためにその椅子が必要なのか、使用目的や置き場所、心が落ち着く色を使用するなど、様々なことを考えながらつくっていたのは鑑賞授業による影響であると思われる。鑑賞を通して周りにある物の見方についても学習することができた。